

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後も理念の実践のため継続していきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	同じ地区の方の理解を深めてもらうため、散歩時に積極的に会話をすると共に、ホームでの祭りに来てもらったり交流を図り、気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りをしたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の行事等に参加し、利用者の方とスタッフが一緒になり利用者の方の得意な手芸品を作り、販売させてもらっている 運営推進会議などで取り組みの働きかけをしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで、日頃私たちの気付かない部分が改善できることで、職員一人ひとりが自己評価を話し合い、改善計画を立て実施に取り組んだ		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での日常の取り組みや行事・ご家族からの要求等の報告を行い、いただいた提案や意見は職員会議で検討しサービスにいかしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも自治会と連絡を取り合い、サービスの質の向上に努めている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員は学ぶ機会があるが、全職員が周知できず理解が不十分	○	研修に参加した職員が職員会議等で伝達講習を行ったり、職場内研修を実施し理解を深めたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを全職員に配布したり、研修会に参加し、その情報を全職員に伝達している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず契約前にご家族様(できるだけご本人さんも)施設を見学してもらい説明を行い、契約時には同意を得た上で行なっている。退所時もきちんと話し合い、理解・納得を得てから行なっている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家事・食事・お茶会等、出来る限り利用者様と一緒に過ごし、直接対話する機会を設けている 不満・苦情に対しては、運営者に報告。スタッフで話し合い改善に努めている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には必ず暮らしぶりや健康状態の報告をし、特変があった場合には個々に合わせた電話報告を行なっている。また、玄関に近況を知らせる写真も掲示し、親近感をもてるようにしている。金銭管理については、毎月の請求書と一緒に確実に報告している	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはお話を伺うようにしている また玄関ホールにてホーム内の苦情対応担当者を表示している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ毎日、社長もホームに来られスタッフとコミュニケーションを図られるため、職員も常日頃から意見や提案をしやすいその都度、意見交換し反映できている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状態に変化が生じた時は、必要な時間に人員を増やす体制がとれる人員の確保ができています	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットあるが、全利用者が職員と顔馴染みになるため、また職員が全利用者の方の特性を把握するため、半年に1回の最小限度の異動はあるが、顔馴染みになっているため利用者の方へのダメージはないと感じている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修・介護技術研修等に積極的に参加し、研修報告書を提出しているが、伝達講習が出来ていない</p> <p>○</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会や小規模ケア連絡会に加入し、ネットワーク作りや情報収集しているが交流は少ない</p> <p>○</p>	同業者と交流については、他同業者施設の見学や実習をさせてもらい、知識を深めたり意見交換ができる関係を作りたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>相談しやすい関係づくりに努め、問題解決に向けて迅速な対応に心掛けている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員の特性を理解し、適切なアドバイスをこなっている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用申し込みの際、スタッフが直接本人に会い、聞く機会を設けている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前の施設見学時・契約時に家族様と情報交換の場を設定し、不安なことや要望を管理者と担当スタッフが聴き把握している。随時、家族の方から話し合いの要望があれば、日時・場所を合わせ話し合いの場を設けている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・担当職員・家族と共に、本人にとって支援・サービスの提供を出来るよう対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけお試し体験入居をしていただき、了解を得た上で入居を決めてもらっている。入居にあたっては、出来る限りご本人さんが今まで使っておられた物を持ち込んでもらうよう依頼し、落ち着ける環境・整備を相談しながら行なっている。また、入所当初は個々に合わせ面会の頻度の要請をし関係作りに努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事・畑作業等を一緒に行なったり、食事・お茶を一緒にし昔の話や知恵等を聞いて学んだりしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設内の祭りには家族様への参加の呼びかけをしたりしている。また、出来るだけ家族様との外食・外出・外泊を行なってもらい、家族様と過ごす時間を提供している	○	施設内行事(遠足等)もっといろいろな活動に参加の呼びかけを行い、共に利用者の方と過ごす時間を増やしていけるようにし、家族様とスタッフとの接点をもうけ信頼関係を築けるよう努力したい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を自由にし、居室にてご家族とゆっくり過ごしていただいたり、自由に外泊・外出していただいている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院・散髪屋・お墓参り・病院へ、ご本人さんが行きたいと要望あれば、スタッフが付き添い関係を継続できるよう支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い方は同じテーブルにしてあげたり、作業・外出時一緒に出来るよう配慮している 話し相手のない方には職員が話し相手をし、孤立しないようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設を変われた場合でも、見舞いに行き、様子伺いし関係をもっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話でご本人の希望を聞いたり、ご家族の希望を面会時や介護計画時に確認してご本人の立場になり検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出来るだけ家族様からこれまでの生活歴や暮らし方の情報収集を行なっている 入所後も本人さんや家族様に話を聞いている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活を共にし、生活の様子を介護記録に記入し、スタッフ間での情報提供を行い状態の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時、ご家族様にも立ち会ってもらい作成している	○	認知度の軽い利用者の方については、今後、日々要望等聞きながら本人さんも交えて作成していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人に合わせて設定した期間での見直しをしているが、状態や思いに変化が見られる時は計画の見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に気づき等記録するが、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに反映されにくい	○	記録の仕方の勉強会を行い、実践や計画の見直しに活かせるよう努力したい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族との連携のもと通院の必要な方には対応を行なっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し協力関係ができつつあり、ホーム内の理解に努めていただいております、コミセンの活動や地区の行事にも参加する機会を作っている	○	避難訓練時、消防署だけでなく地区の消防団の方にも参加していただき、地域に根ざす工夫をしていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば他のサービスを利用することもあり得るが、地域行事や地域団体と平素から交流があり、現在特に必要性を感じていない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターからも参加していただき情報交換している	○	現在は権利擁護の方はおられないが、今後入所される可能性もあるため、包括支援センターの方による施設内研修を行なってもらい知識を深めたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族の希望を確認して、適切な医療が受けられるように支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の診断・治療・相談を受けている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師に定期的に来所してもらい、医療・介護全般で助言対応をしてもらっている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は必ず、環境の変化による心身の低下を予防するためのお見舞いに行ったり、他利用者の方からの励ましの手紙を持って行ったりしている。また、看護師や医師と情報交換をし、ご家族様とも連絡を取り合い不安にならないよう心掛けている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	ご本人、ご家族の意向を聞いていく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階では特養の入所が決まると、特養に入居されるケースが多く、ご本人・ご家族の意向をもとに検討している		重度化又は終末期の利用者の方がおられないが、検討すると共に変化に対応できるよう勉強会をしたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい環境での生活になり不信感を抱いたり混乱がない様、暮らし方が継続出来るようスタッフ間での情報の交換を行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを何気ない声掛けで損ねてしまったと気づき反省することがある 入社時に守秘義務・個人情報保護の誓約をしている 申し送りは利用者方の居ないところで行なっている	○ 毎月の職員会議で確認し、スタッフ全員で再度共有していきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の希望や思いを表し易いような関係作りをし、疑問形で聞いたり現物を見て選んでいただく等、関心をもたれるような支援をしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望等を取り入れながら、一人ひとりのペースに合わせて過ごせるよう配慮している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	可能な限り、服装はご本人に選んでいただいている。また、定期的に理・美容院へ行っていただき、希望される方はパーマ・毛染めもしてもらっている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片付けをスタッフも一緒になり行い、一人ひとりの能力を発揮してもらっている また、昼食も一緒にテーブルで一緒に作った食事を食べている。季節に応じて弁当を作り、外で食すこともある	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつをご本人の希望を聞いて飲んでいただいている。喫煙される方には指定の喫煙場所にて喫煙していただいている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導しリハビリパンツや尿取りパットの使用量を減らすよう支援している	○	排泄リズムを把握し、日中は布パンツで対応できる取り組みをしたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おき、午後3時からとしているが、希望されたり状況に応じて入浴されるよう支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気持ちよく休息したり眠れるように、一人ひとりに合わせた室温設定している。また、寝付けない時など温かい飲み物(ホットミルク等)をサービスし、安心できるようしばらく話をしたりの対応している	○	夜間、安心して入眠できるよう夕方からの過ごし方の背景を考え対応していきたい
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や特技を活かしての家事・畑仕事を行なってもらい感謝の気持ちと言葉を添えている また、地域行事(文化祭・敬老会・とんど)参加や施設内行事(遠足・七夕会等)の支援を行なっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診時の支払い等、本人がお金を持っていない場合は、事前にお金を手渡し自分で支払ってもらっている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、駐車場にシートを敷きお茶会をしたりしている 希望に応じて買物へ行ったり、ご家族同伴で墓参りに行ったりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅に帰ったり、墓参りや買い物等、家族様に支援を出来る限り依頼している 年3回は、利用者の方が行きたいところを考慮し遠足に行っている	○	遠足等、家族様にも参加を促し、利用者の方と過ごすいい思い出作りの機会の場を作っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時は手紙のやり取りや、自らが電話されるよう支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の決まりはない。朝や夜に面会に来られることも多い。面会時、居心地よく過ごしてもらえるようお茶をサービスしたり、来訪者の人に合わせ椅子などを用意している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを全職員に配布したり、研修会に参加しその情報を全職員に伝達している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていない。居室内の窓も鍵はしていない。居室の窓の鍵については、入居者のその日の状況やホームの都合によって、施錠せざるを得ないこともある(空中散布時等)。外出しそうな様子がみられる時には、常に居場所を把握し、外出される時には一緒についていっている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人と同じ空間で周囲が見渡せるように介護記録の記入を行なっている。夜勤者は安全確認を行い、時間ごとに巡視を行なっている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・針・鍵は必要な時に出し使用している 使用後は必ず確認し保管している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット作成、スタッフ間での話し合いにより再発防止に取り組んでいる 事故発生時には、ご家族への説明を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回、応急手当や心肺蘇生法・搬送の仕方の訓練を消防署の方に来所してもらい行なっている	○	ただ訓練するだけでなく、あらゆる状況を想定し、実践訓練に取り組んでいきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		○	消防署の協力を得て避難訓練を行なっているが、地域の方々の協力を得られるような働きかけが不十分である
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々に起こりうるリスクについて家族に説明すると共に、話し合い理解を得ており、危険を未然に防ぐ配慮している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日3回(朝・昼・夜)のバイタルチェックを行い、健康状態を把握している。同じ空間で生活しているため、体調の変化や異変の発見は早い。状況をきちんと記録し、スタッフ間の情報の共有に努めている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個人記録にファイルし、薬の変更がある場合は必ず差し替えし、全職員がすぐわかるようにしている 服薬確認表を作成し、誤薬防止に努めている 薬は本人に手渡し、確実に服用し終わるまで見守りしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維・牛乳・ヨーグルト・ヤクルトの摂取 天気の良い日の散歩、毎朝のラジオ体操をする事により体を動かす機会をつくっている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを習慣化し、声掛け見守り・介助を行なっている。定期的に施設外研修参加している。また、協力歯科医師に相談等行なっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一緒に食事しており摂取量が確認できている その方に合わせての食事方法(きざみ、とろみづけ)を行なっている。水分については居室にポットを設置し、1日1200cc飲んでもらうよう努めている</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策マニュアルを作成し、全職員周知している インフルエンザ予防接種もご家族の同意を得て全員に行なっている。また、手洗いは十分に行い、食事前には必ず手指消毒している。玄関には面会者の方用の消毒も設置している</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食前の消毒、まな板や布巾等のハイター消毒の実施。担当者を決め短い周期での買物、食品の点検を行なっている</p>	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りに、利用者の方が育てた花を鉢寄せし置いている</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには利用者様と作った季節の作品を掲示 食堂から見える中庭には季節の花や野菜を植え、常に季節を感じるようにしている また、不用にテレビをつけていたり、音が大きくなりすぎないように配慮している</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間が狭いが、ソファを食堂に置いたり、畳の談話室も利用し、気の合った利用者同士で過ごせるようにしてある</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族の希望により使いなれた家具や使い易い収納用品を持ち込まれている また、テレビ、ラジカセ、写真、人形等好みの物を置いていただいている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は細めに窓を開け換気している。また、24時間換気扇をまわしている トイレは常に窓を開け換気扇をまわしている。定期的にトイレをチェックし、臭いの元にならぬよう掃除している 温度調節は個々に合わせた設定をしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、玄関、トイレ、浴槽には手摺りを設置してある。また、ホーム内は木製でフラットにしてあり衝撃も少ない		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を生じる原因を把握し、職員間の情報を共有している いろいろな角度から見直し等行なっている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホールより見える中庭には季節の野菜を作ったり、花を植えたりしてウッドスロープを通り、いつでも出入り出来るようにしている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人の生活暦や個性・可能性を大切に、その方らしい生活を日々送れるよう努めている。

また、毎日の生活の関わりのなかで常にさりげない発言、行動、表情等に気をつけ、ご本人の心情を理解し寄り添えるように心掛けている。